



はじめまして。4月から図書館司書として働くことになりました、高田と申します。みなさんにとって図書館が居心地のよい場所となるよう励みますので、よろしくお願いいたします。

私の「司書の部屋」では、関西にまつわる本を紹介します。関西出身の人物、関西が舞台の小説や映画、歴史や注目のスポット...各ジャンルからおもしろいことを発掘していこうと思っています。

1回目の今回は私のオススメの本を紹介します。その名も**浮遊霊ブラジル**。どんな話やねん、と思いませんか？著者の津村記久子さんは大阪府出身。浮遊霊ブラジルは7篇からなる短篇集です。

「給水塔と亀」「うどん屋のジェンダー、またはコルネさん」
「アイトール・ベラスコの新しい妻」「地獄」「運命」「個性」「浮遊霊ブラジル」

タイトルだけでもおもしろそうな感じがしますね。中でも私のお気に入りは3つ。

うどん屋のジェンダー、またはコルネさん

超気さくな店主が客に話しかけまくるうどん屋での、とある光景を描いたお話。「醤油はこうやってこうやってこうや。この最後の半分かけるのがコツや」とハウツーを説明し続ける店主。注文したコルネさんに「ほなすぐゆがいたるさかいに待っとき」と話しかける店主。このあと小さな波乱が起きるのですが、登場人物全員の優しさが感じられる一篇。

地獄

私（のむのむ）と同級生のかよちゃんは、温泉に行った帰りのバス事故で死んでしまった。各地獄への配属の列に並んでいた2人だったが、列を仕切っている鬼の鼻毛がものすごく出ているという話で激しく盛り上がり、鬼に促され別の地獄行きになってしまう。のむのむは「物語消費しすぎ地獄」、かよちゃんは「おしゃべり下衆野郎地獄」行き。2人とも日々のタスクをこなしつつ、鬼との関係を築き、地獄ライフを送るのだった。

浮遊霊ブラジル

初の海外旅行を目前に急逝した私。思ったよりアイルランドのアラン諸島に行きたかったようで、スムーズにあの世に行くことがままならず、幽霊として現世にとどまることになってしまった。幽霊なのに移動範囲は限られていて、がっかりするが、ひょんなことから人に憑りつく技術を身につける。人から人へ乗り移りながら移動を始めて...

いかがでしょうか。なかなかパンチのある短篇集です。装丁も面白いので、ぜひ手に取ってみてくださいね。

